

こ  
れ  
も

御  
縁

と  
い  
う  
事  
で

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

こ れ も

御 縁

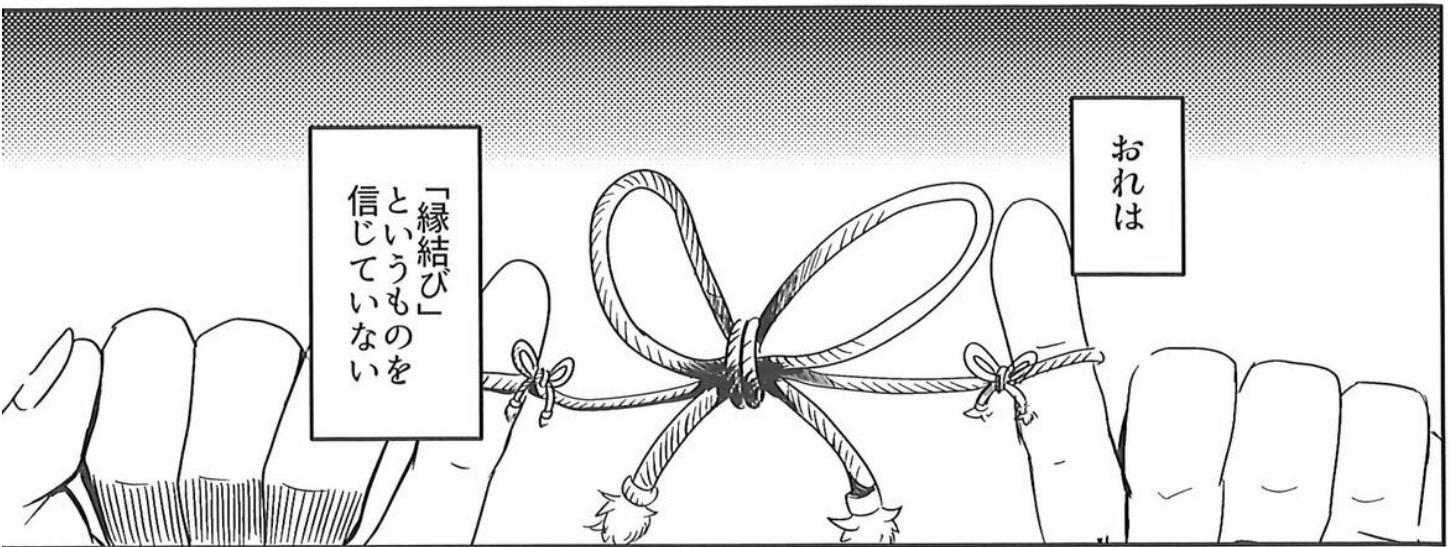
と いう 事 で

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止

■まえがき

大正のような昭和のような  
なんとな〜くのふわっとしたノスタルジィーな  
感じで読んでいただければ幸いです。

2019/12/31 おじな



おれは

「縁結び」というものを信じていない



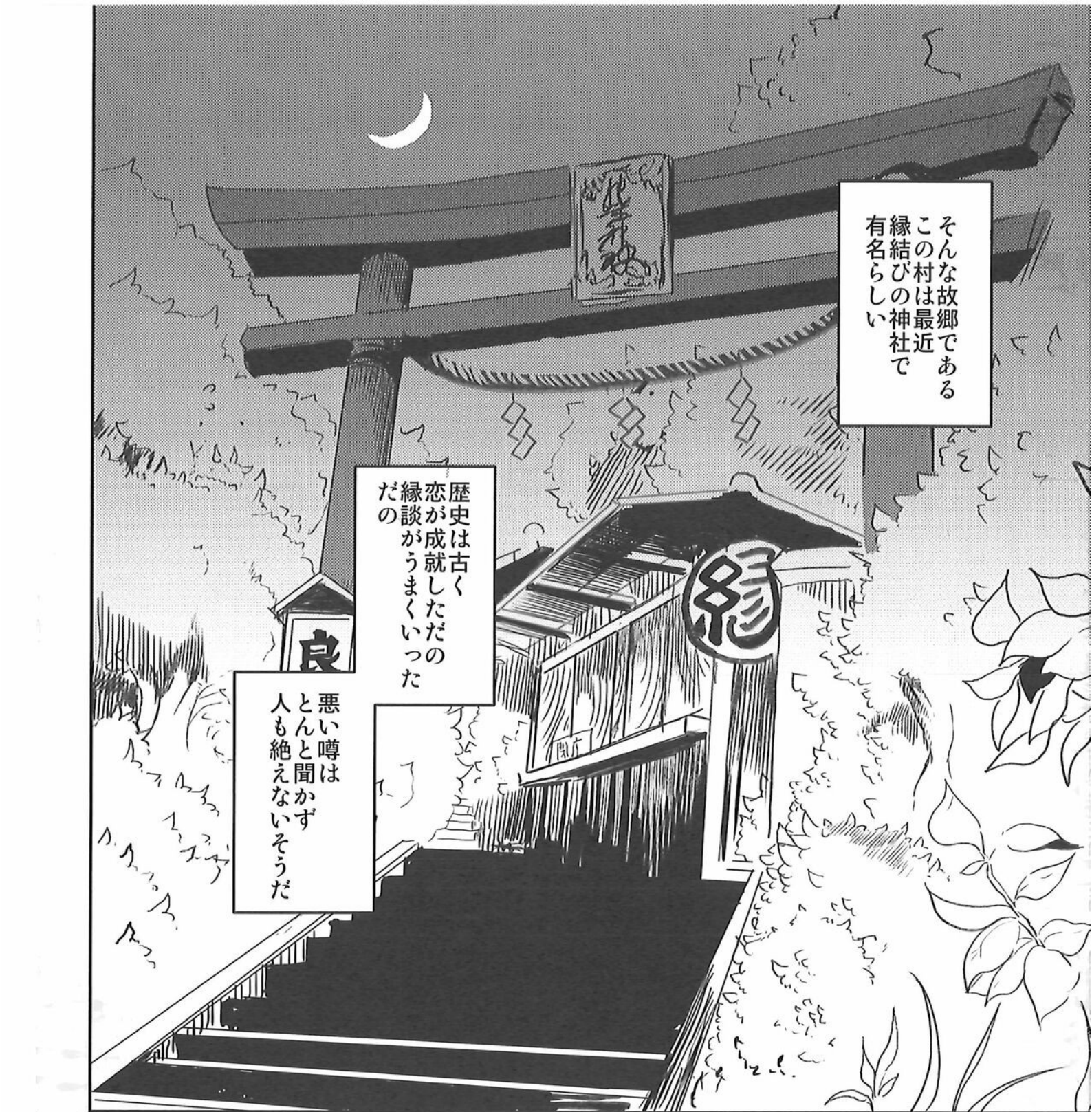
両親が事故で死に親戚の家に引き取られてから

おれをひきとった親戚の義父母とは不仲で全寮制の軍学校へ通うことになった

縁というものに恵まれない

この休暇の帰省が終われば


正式に配属となり二度とこの故郷：田畑ばかりの田舎に戻ってくることはないだろう



そんな故郷である  
この村は最近  
縁結びの神社で  
有名ならしい

歴史は古く  
恋が成就したのだ  
縁談がうまくいった  
のだ

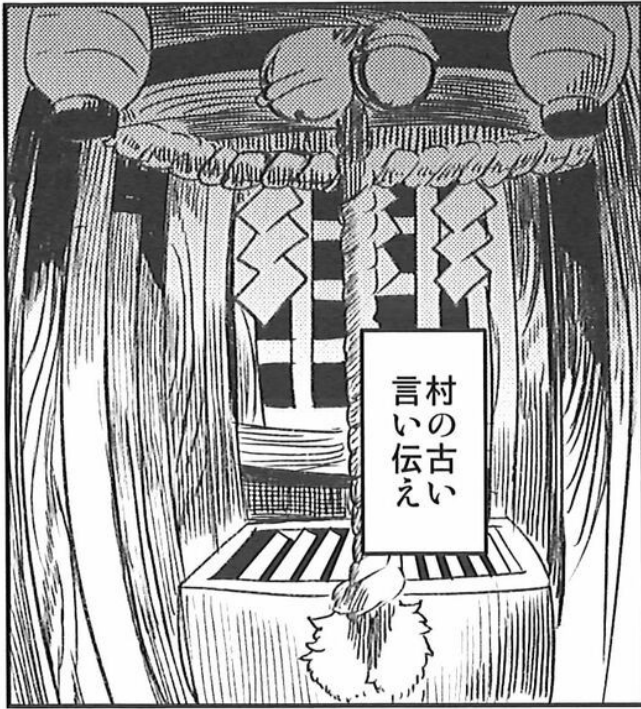
悪い噂は  
とんと聞かず  
人も絶えないそうだ



しかし信心深くも  
故郷に愛も職ない  
おれにとつては

特に興味も  
それこそ  
縁もない

—  
だが



村の古い  
言い伝え



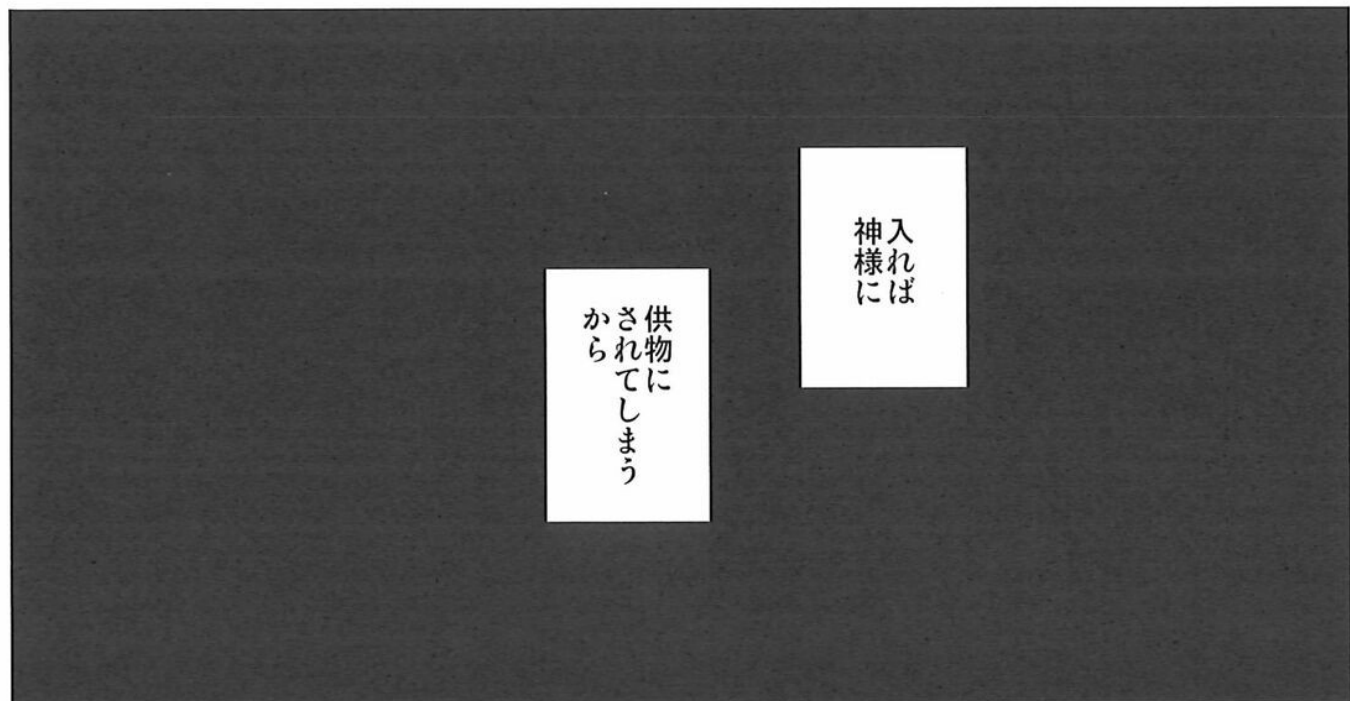
不仲であつた  
養父母が

これだけはと  
口酸っぱく  
言つていた



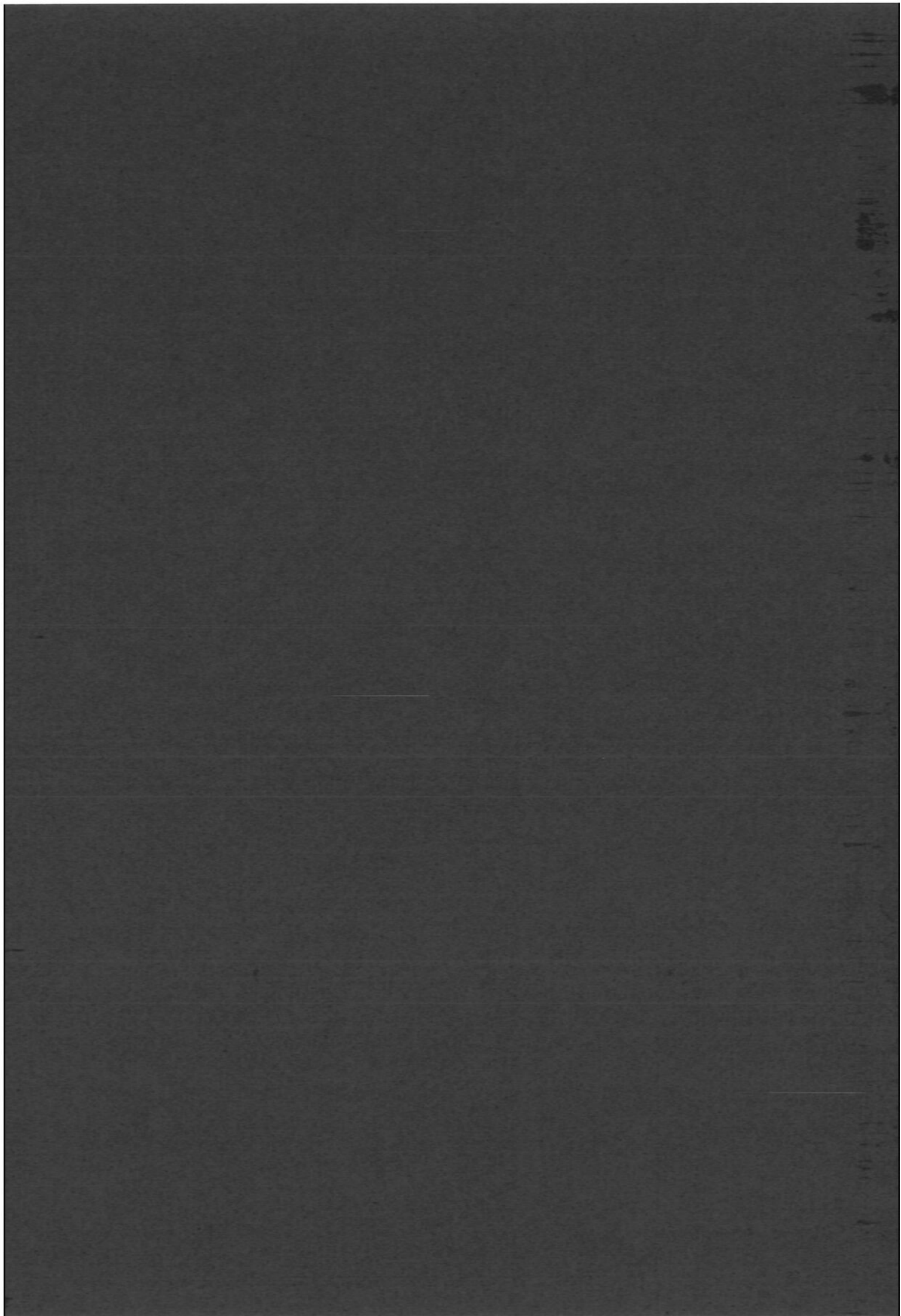
日が沈んで  
いる間は  
決して

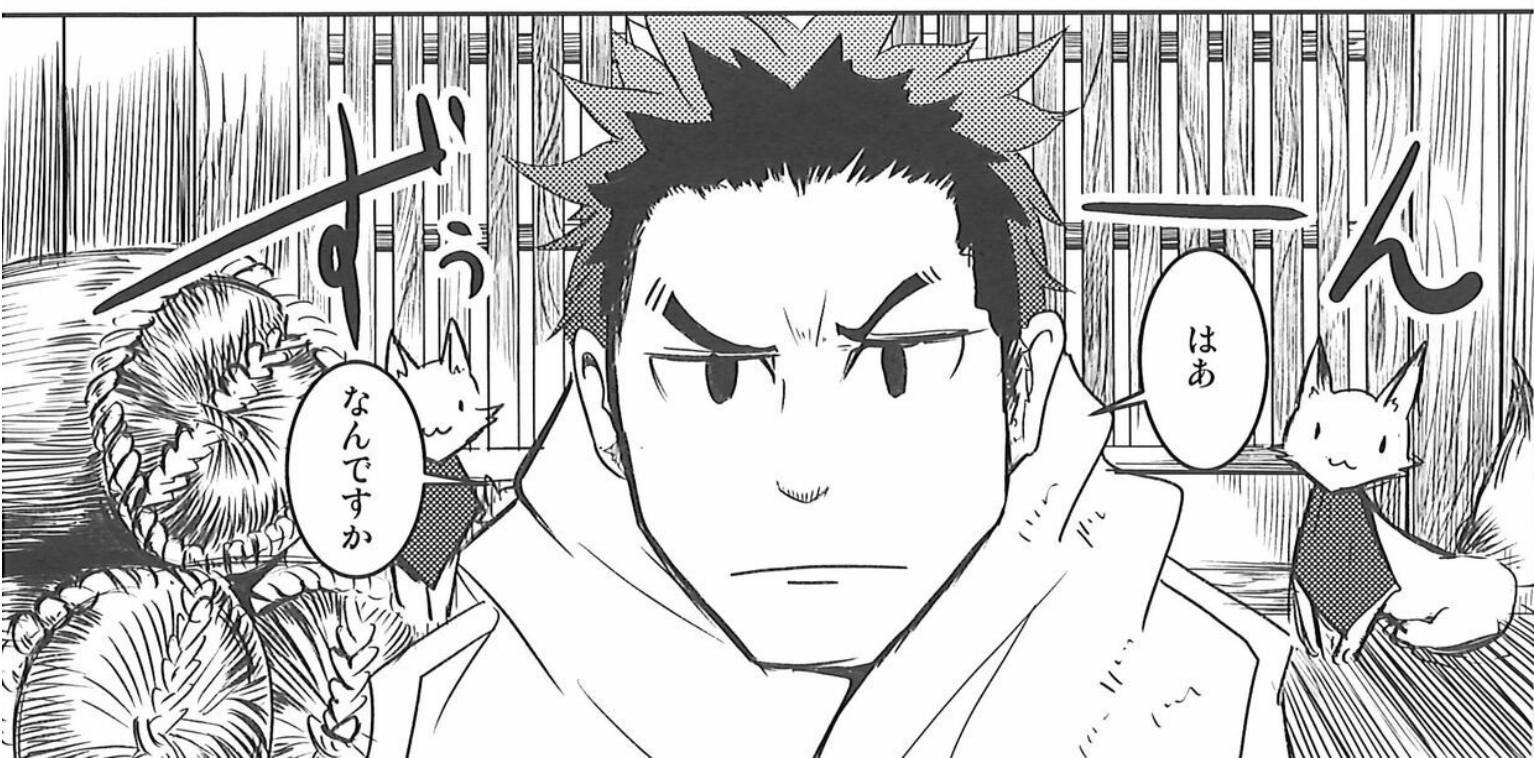
境内に  
入つては  
いけない



入れば  
神様に

供物に  
されてしまふ  
から





なんだ貴様  
折角我が神域に  
招いてやった  
というのに  
不機嫌だな

いやいきなり  
連れて来て  
なんだんだよ  
あんたは！

ううむ  
一昔前は我が贄に  
選ばれるのは  
至上の喜びと  
されたもの  
なのだが…

いつの時代の  
話だそれ！

だがいくら  
不機嫌でも  
後の祭りだ

誰そ彼刻から  
彼は誰刻まで  
神域に入りし者は  
我が贄とする

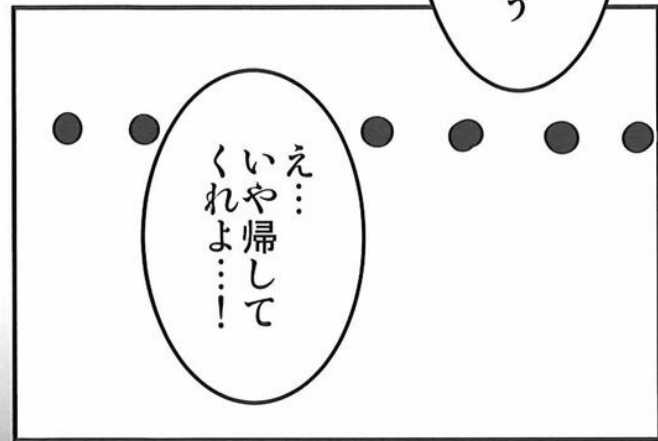
そういった  
契約の元私は  
この村に豊穰と  
縁結びの力を  
もたらしているのだ

お前の身も心も  
魂も  
全て私のものだ

お前は贄として  
身を捧げた  
——つまり



だが契約上  
もう逃れよう  
がないぞ



え…  
いや帰して  
くれよ…!!



いやそう言われても  
知らないのです

なぬっ



丑の刻参り  
的なアレ  
だったら  
嫌だなーと  
思ってた

ったく…



止めに  
入ろうと  
はいつただけ



そもそもさつき  
たまたま  
境内に人影を  
みかけて



おーい!  
夜は立ち入り  
禁止だぞー!



なっ…



我が神域に  
足を踏み  
入れたな



久方ぶりの  
贄だ



お前はもう  
私のものだ



妖の類  
だとでも?

見た目が  
妖狐とか



そもそもお前本当に  
神なのかどうかも  
怪しいだろ



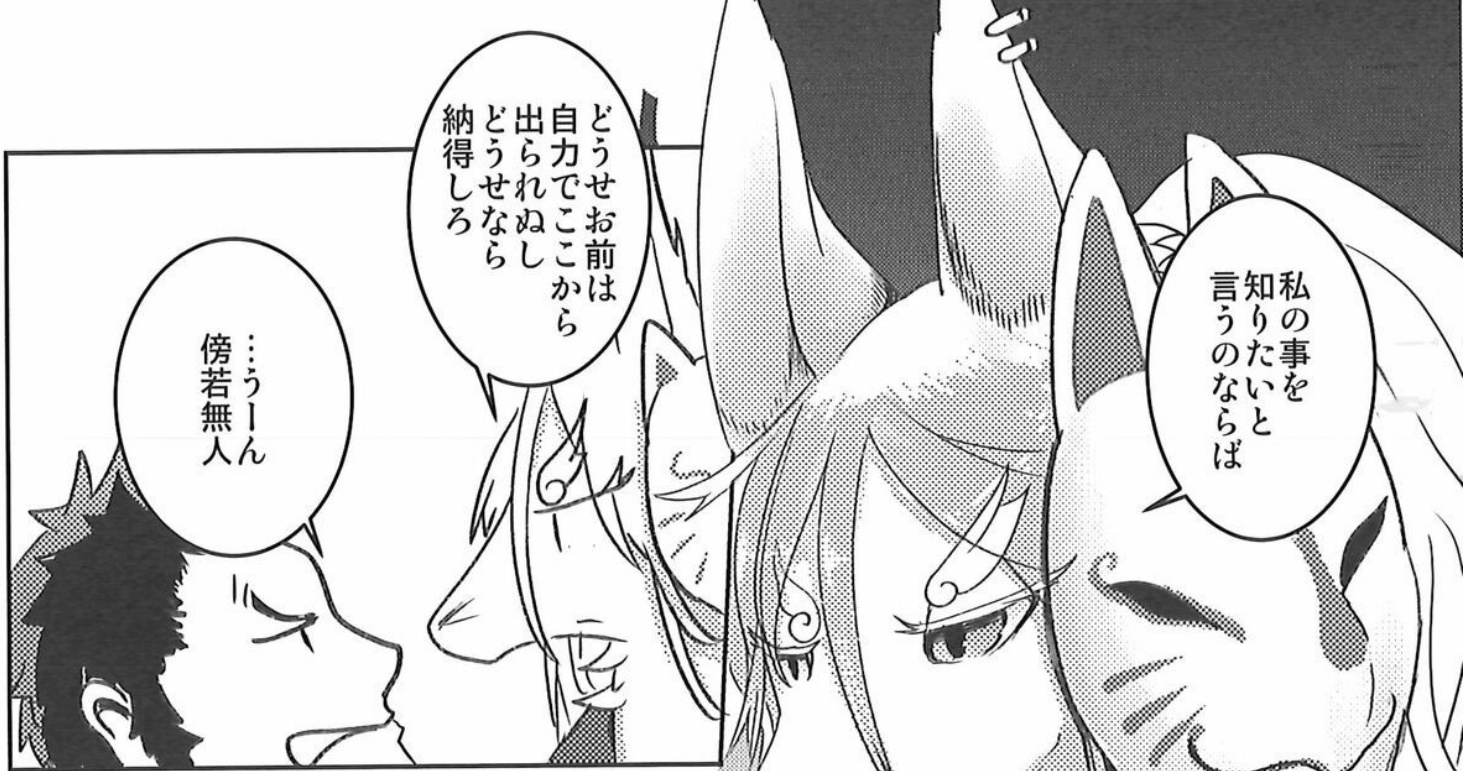
結局全部  
お前の持ち込み  
企画じゃねーか!

ちなみにお前が  
見かけたのは  
蔵に酒を取りに行った  
私だと思おうが



うむ：  
そうだな

私としては  
合意のもと  
信心を持って  
贄となつて  
欲しいのだが



…うーん  
傍若無人

どうせお前は  
自力でここから  
出られぬし  
どうせなら  
納得しろ

私の事を  
知りたいと  
言うのならば



よしでは  
ちよつと  
こっちへ寄れ



もう  
ちよつと右

そこだ



折角だ  
説明ついでに  
我が権能を  
見せてやろう



はっ！

ぬわーっ!?



キリや ああああ

痛くない！



人の縁に  
やさぐれ気味で  
奥深くに  
埋もれていたが

しゅる



うむ

しゅん



この紐を結ぶと  
縁がでける

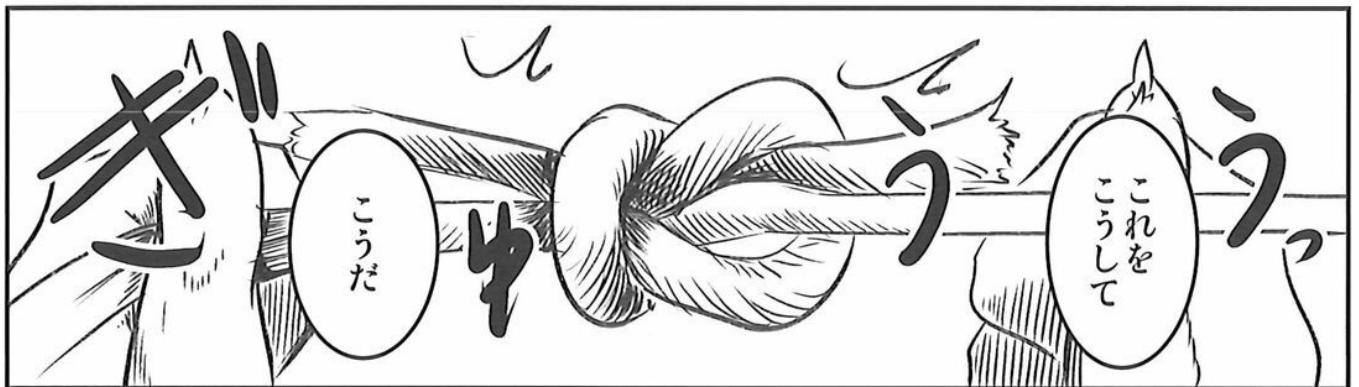


折角だ  
私の縁と  
結んでやろう



胸から出てる  
その紐が

こいつが  
お前の「縁」だ



こうだ

これを  
こうして



…さて  
私と太く強く  
縁を結ばれた  
気分はどうだい?



とまあ  
こんな事をやると  
縁が結ばれるわけだ

よく運命の赤い糸  
だとか言うが  
あくまでこの縁の  
一種だな



さてこれで  
言わずとも  
私が神だと理解  
できただろう

これだけ強い  
縁で結ぶと  
気持ちも考えも  
垂れ流しだ



なんだこれ…

とわ



えっ…  
あっ…?

…はい



強く結んだ  
とはいえ  
存外従順に  
なったな…

ここまで  
いい子なら  
眷族になっ  
てもらおうか

とわ…

信頼できる

とわ…

とわ…

彼の言葉が  
耳に入ると  
安心する

あたまが  
ほわんと  
落ちていて

とわ…



頭は冷静の  
つもりなのに

彼の言う事なら  
何でも聞け  
そんな気がする



神域で儀式を  
施したいが  
人のままでは  
入れぬ  
これを被れ



人でなくなると  
いう言葉も  
当然に聞こえて  
しまふ



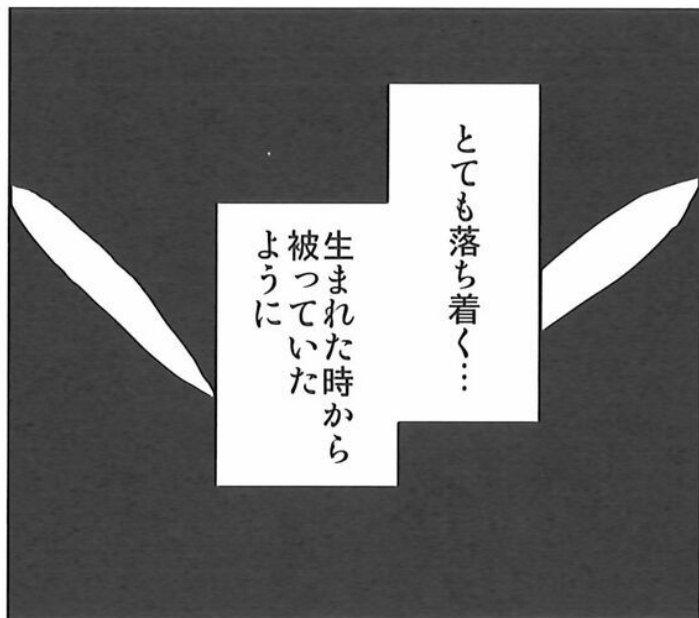
…あれ？

かほっ

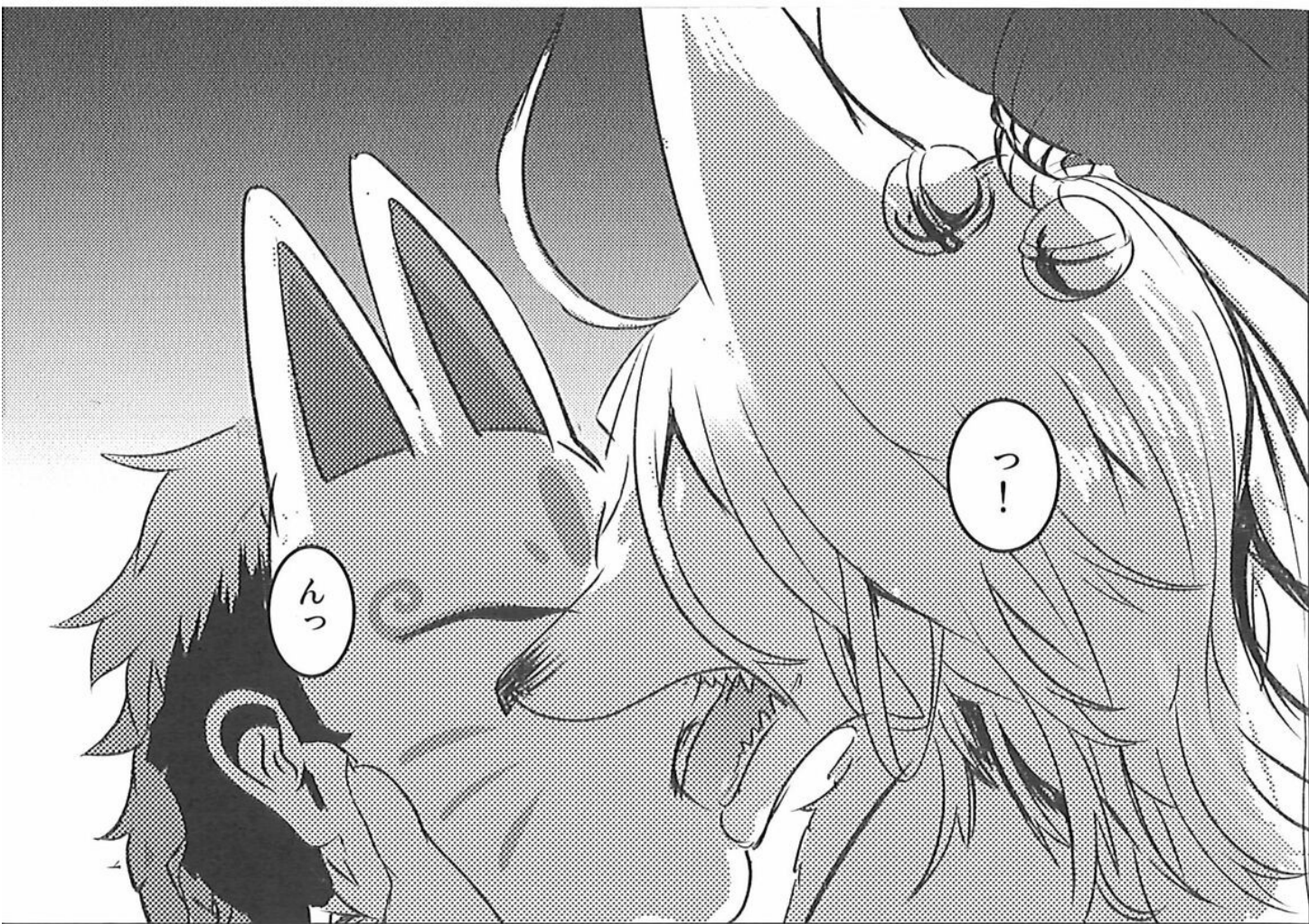
なんでおれ  
今までこれを  
被っていなかった  
んだらう？



もう馴染んだな  
やはり貴様は  
筋がいい



とても落ち着く…  
生まれた時から  
被っていた  
ように





えっ



なにこれ



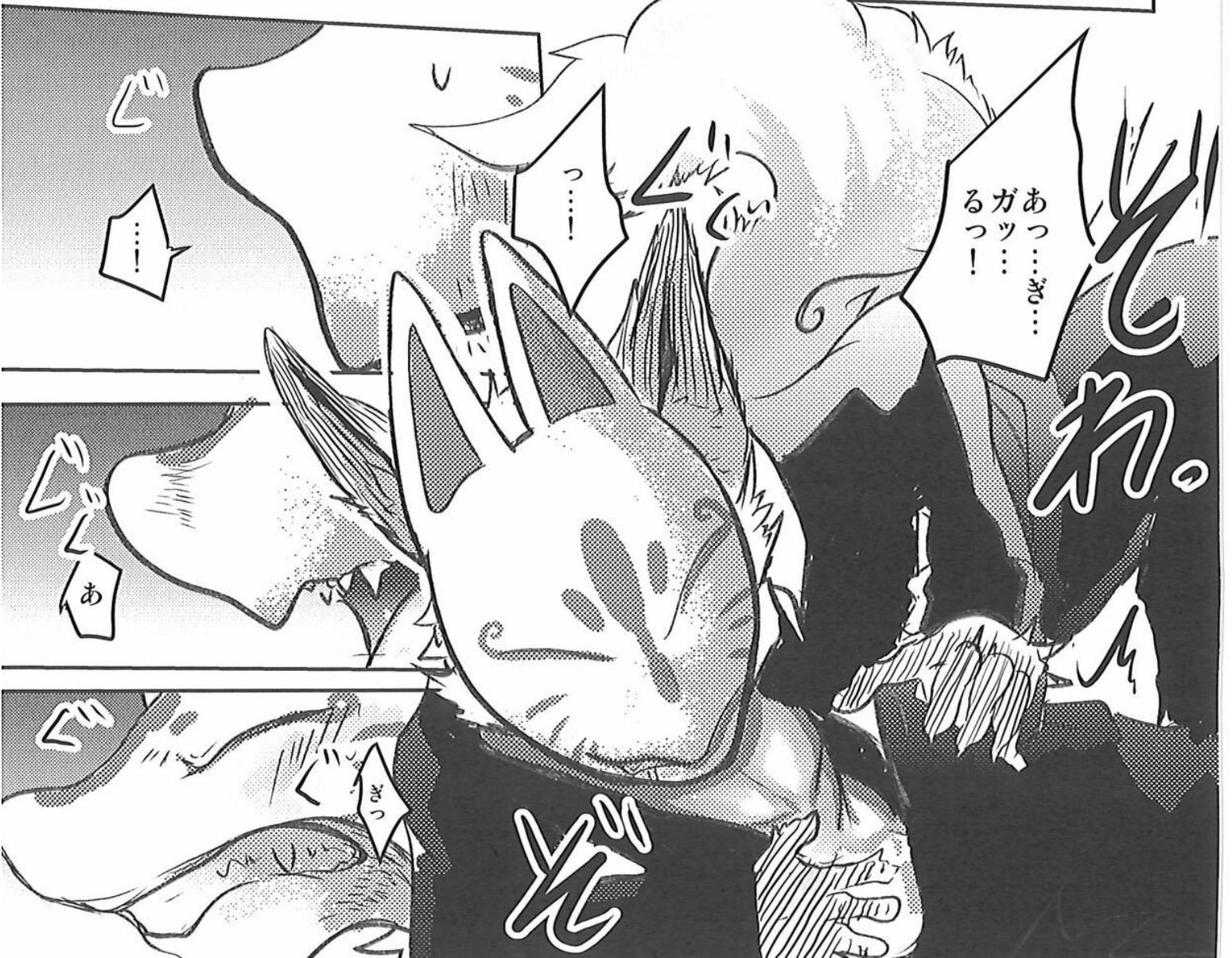
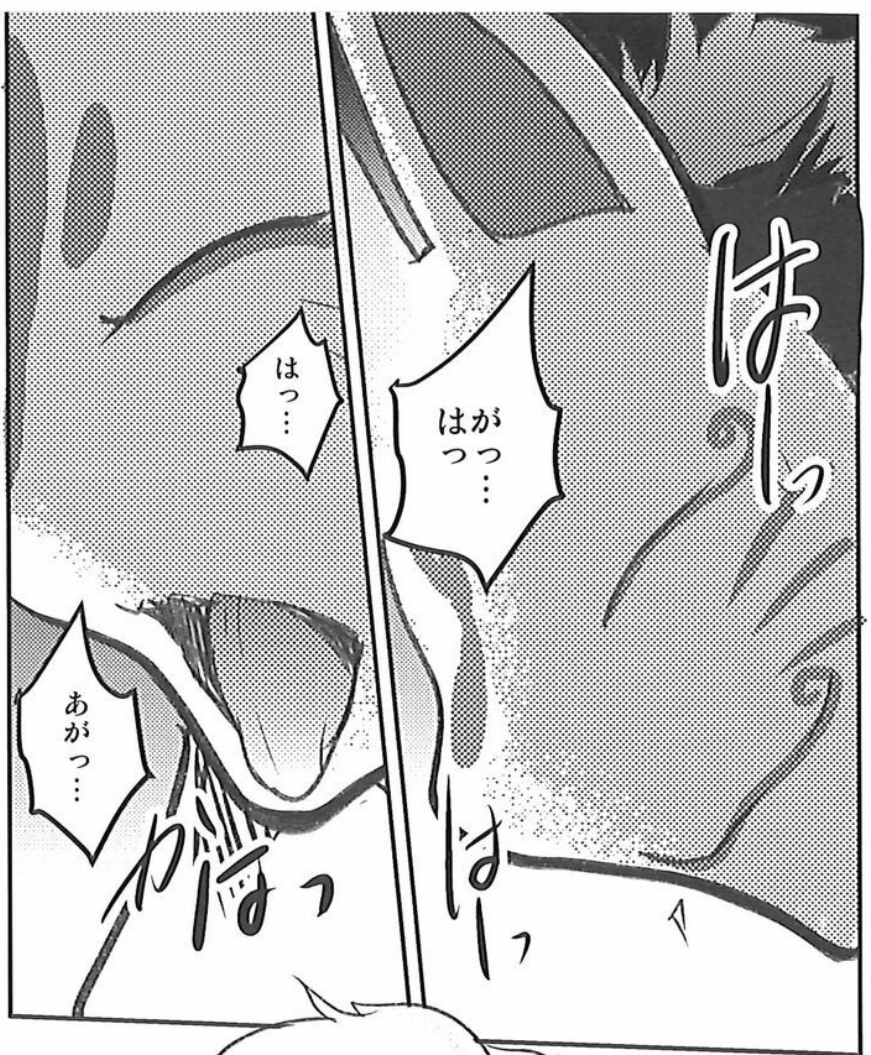
てが...  
あっ...  
どうなって...



うむ  
もう内側は人では  
なくなっている

少し痛いかも  
知れぬが  
我慢してくれ

なにこれ  
なにこれ  
あっほい  
しっぽい?





あっ  
があっ  
おやおっ!  
ガ

あっ

おやおっ!

あ



儀式には  
充分だ



あ、はっ  
喋れるようになるまでは少しかかるかも知れぬが

はっ



お前の溜まった精力を

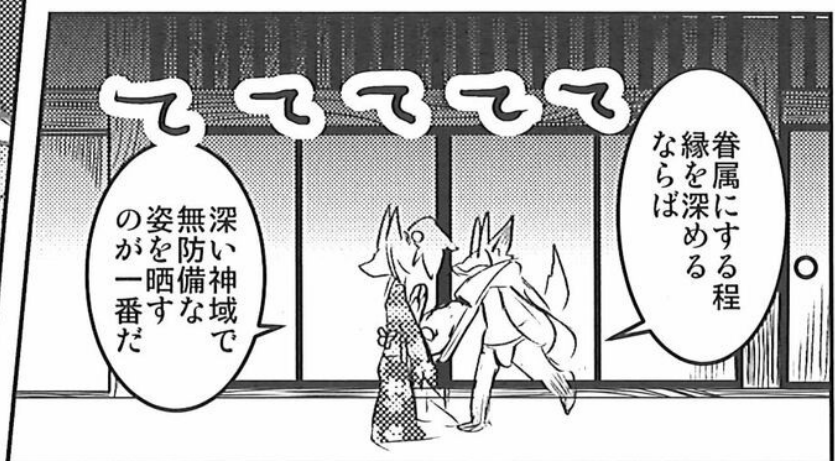
いただきますか



あれおれいまってどうなって…



うむヒト臭さも消えている  
こっちへおいで



深い神域で無防備な姿を晒すのが一番だ

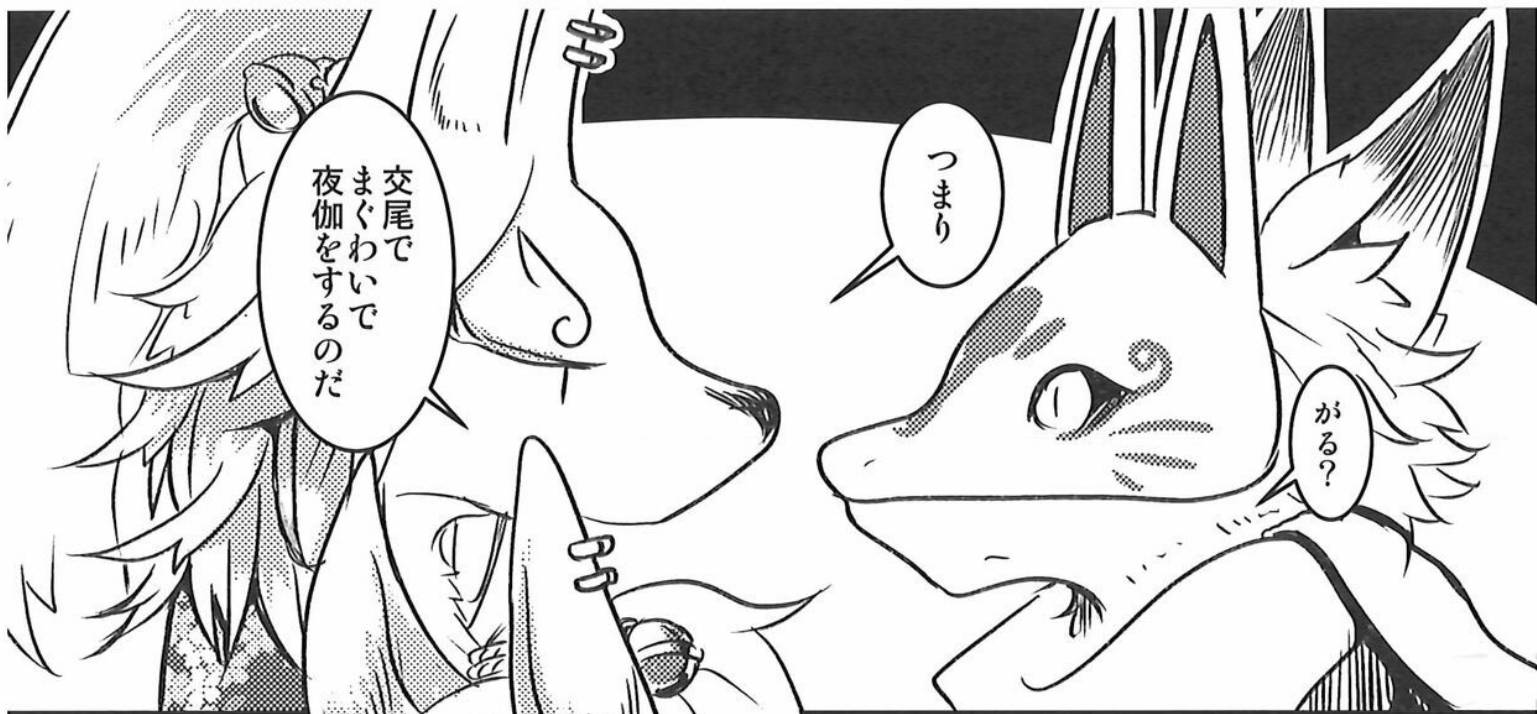
眷属にする程縁を深めるならば



我が贅として務めを果たしてもらおう



だがそれ以前にお前には



交尾で  
まぐわいで  
夜伽をするのだ

つまり

がる？



ば

それに私の  
影響に置かれた  
その体では

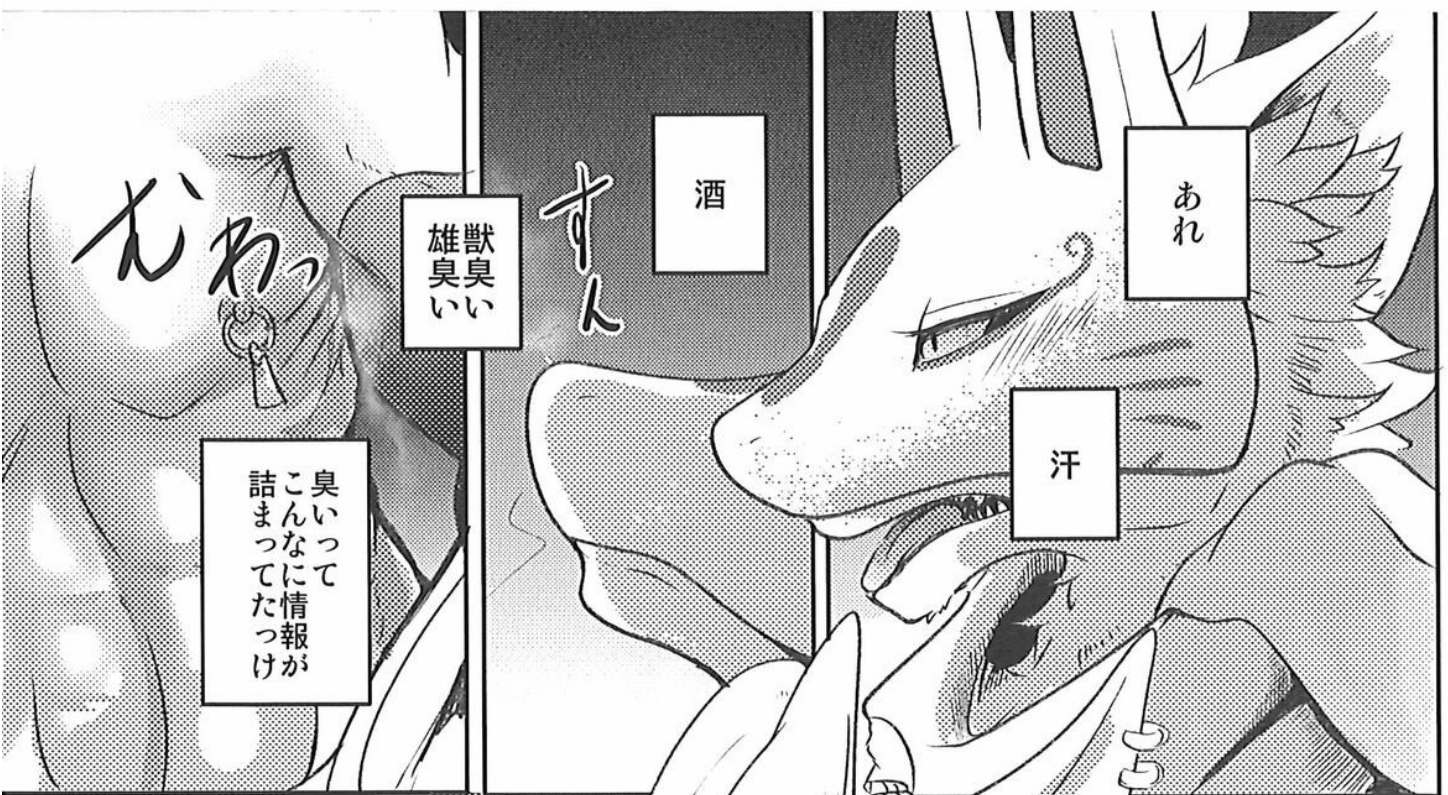
私を前に  
抗えぬよ

姿かたちは男同士だが  
神が性別など  
気にすると思うか？

むしろ生殖に  
こだわる必要  
がない分

男同士のほうが  
挿しても挿されても  
良いから  
効率が良い

まわ



ぐわっ

獣臭い  
雄臭い

酒

あれ

汗

臭いって  
こんな情報  
詰まってる

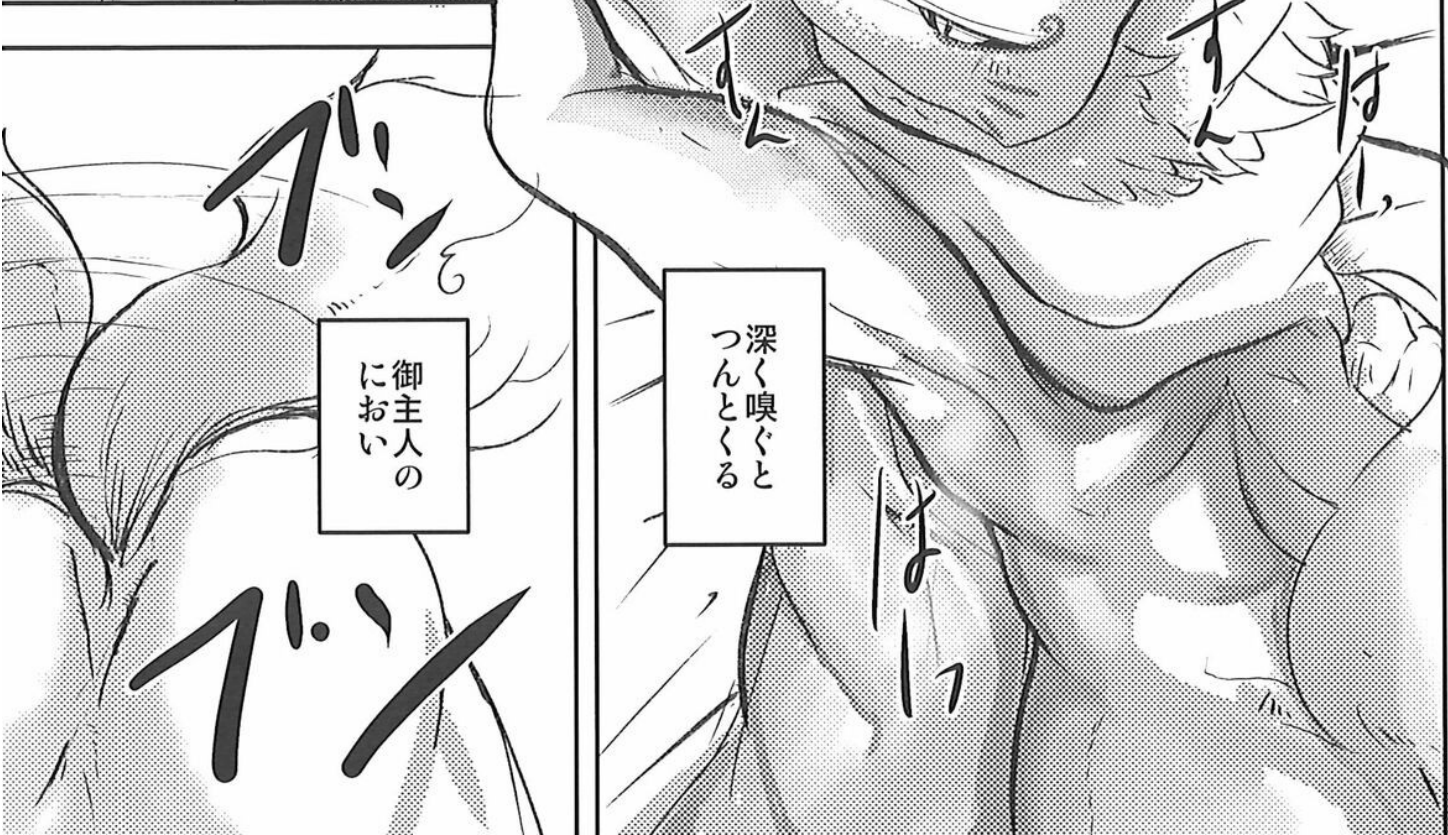


ぐわあ

すごい  
におい

でも  
臭くない

すん



御主人の  
におい

深く嗅ぐと  
つんとくる

グン

グン



あつ…  
つんつて

頭の中で  
痺れる

縁を結び体液を  
取り込み  
相性も良くなった  
体では

嗅覚が鋭く  
なっているから  
がつんと  
くるだろう



私の香りを嗅げば  
正気では  
いられない

影響を与えた  
私自身も  
似たような  
ものだが

ごしゅじん…  
ごしゅじん…



そうら  
おまえが  
こうさせたのだ

獣と雄のにおいが  
強くなつたらう  
存分に嗅ぐと良い

むわあ



精気と臭気が  
混じってて  
くらくらする



剥けてはい  
ないのだな



酒粕のよ  
うに濃  
厚な臭  
いだ



洗つても  
においが  
こもりや  
すい



しかし本  
当に夢  
中にな  
って  
嗅いで  
くれる  
な  
私の体  
臭好き  
がれ  
もろに  
受け継  
がれ  
てしま  
った



あつ

わん

おかつく  
おかつく  
なる

濃濃  
おいしい  
あつ  
オイが

は

は

は

す

す

す



わん

痛かったら  
言え



さて剥かせて  
もらうぞ



わん

お前のは  
固くて大きいな



あつ  
中...  
凄



わん



わん



これは：  
すごいな…

濃いにおいが  
まとわり  
ついている

こんな雄を  
嗅いででは  
ダメになる  
そうだな



夢中になって  
いるところ  
悪い

こちらも疼いて  
たまらんのだ

このまま嗅いで  
いたい…



はぁんっ

はぁんっ



ほうらこっちも  
良いぞ

神には  
排泄など  
不要だが

楽しむ為  
に付けている



あ…  
すこ…

ごしゅじんが  
おれを誘って

はっ



洗浄も必要ない  
ほぐさずとも  
存分にぶち込む  
がよい

わん



ヒトじゃ  
ないのに

雄の体  
なのに

御主人を前に  
すると  
止められない

すごい  
好き  
好き



あつ  
お前...

あつ  
舌が尻に  
締め付け  
られる...



そんな所  
舐めて...



だが

うん



縁を強く結んで  
神力を注いで  
しまったから

嗜好に  
変な影響が  
出てるな

はっ



はっ

……!



だがこちらも  
我慢できなくてな

さあ  
ちんぽをぶち  
込んでおくれ

はっ

うん



あおつ  
あつ…

これ…  
全部…  
挿入…

はは

はは

みち

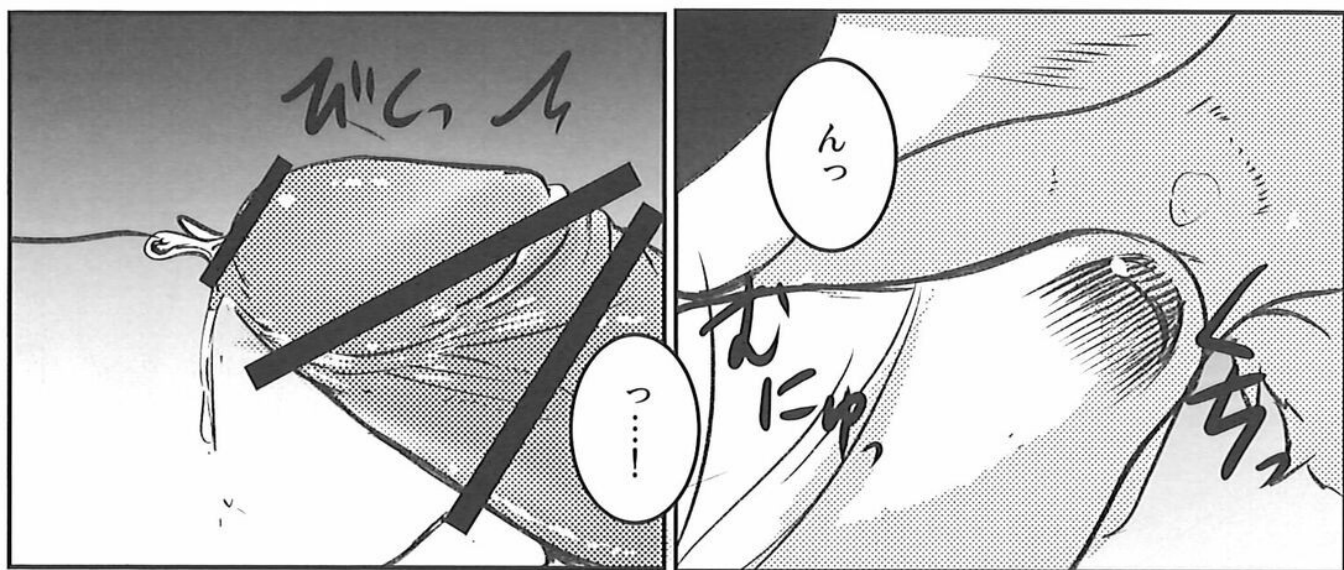
うん

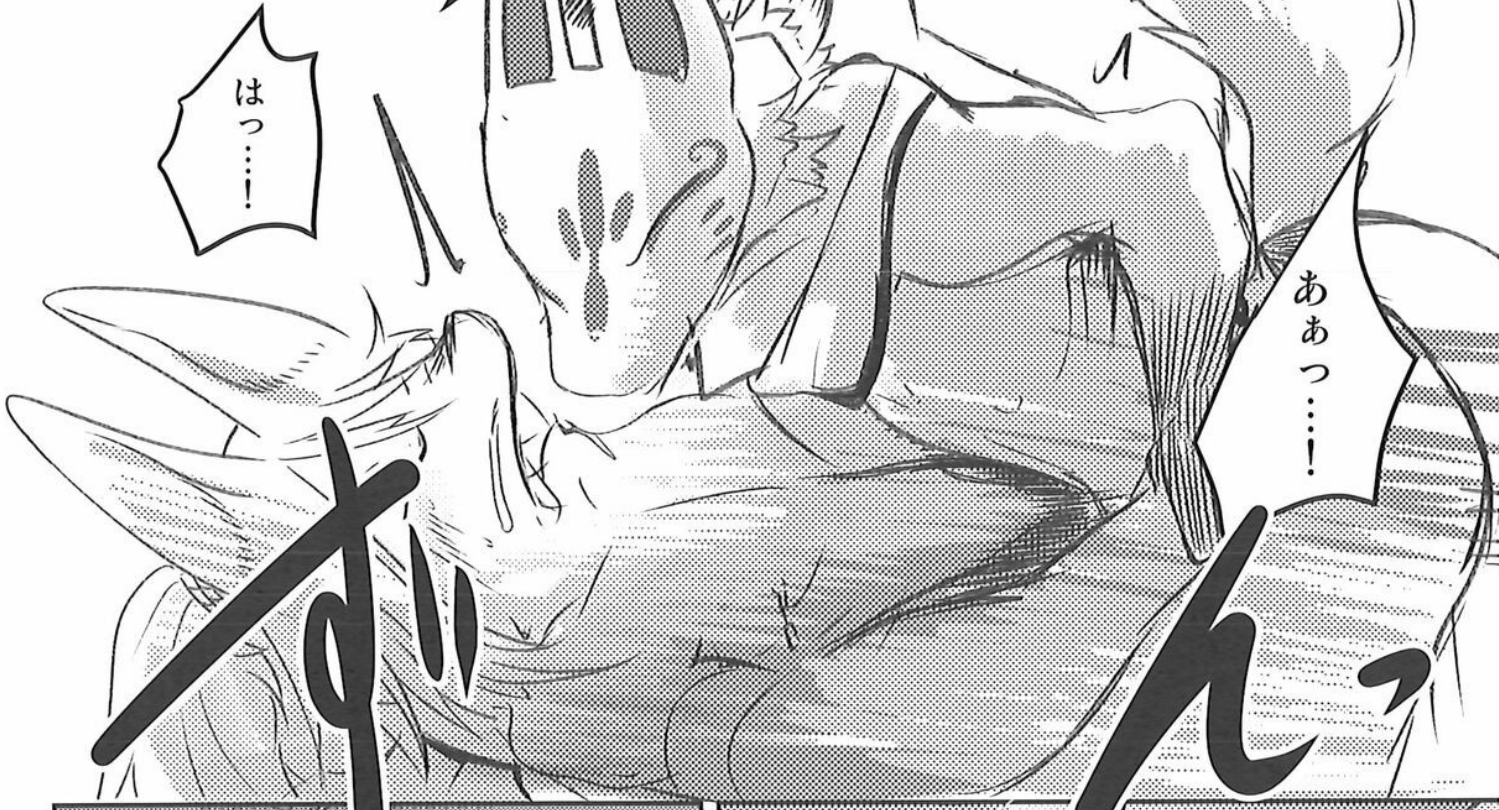
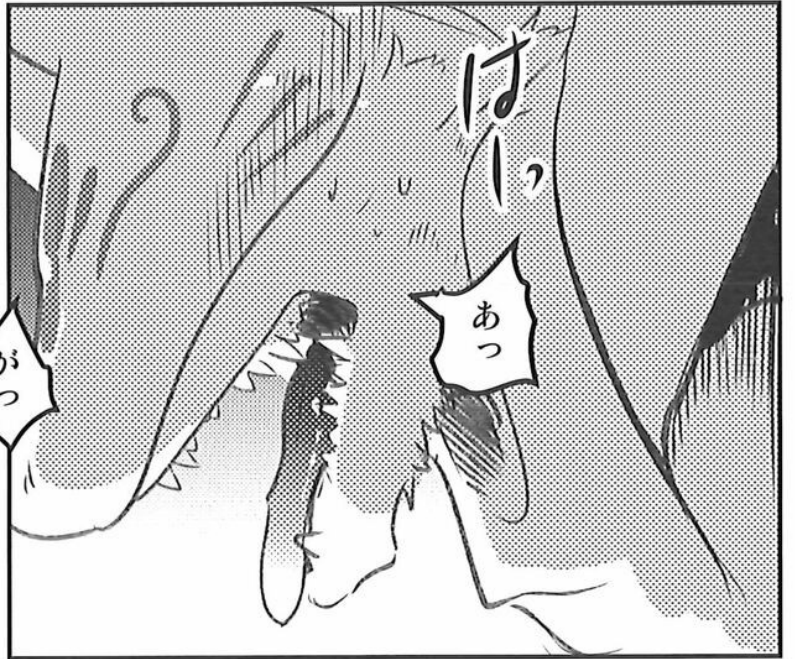
ん

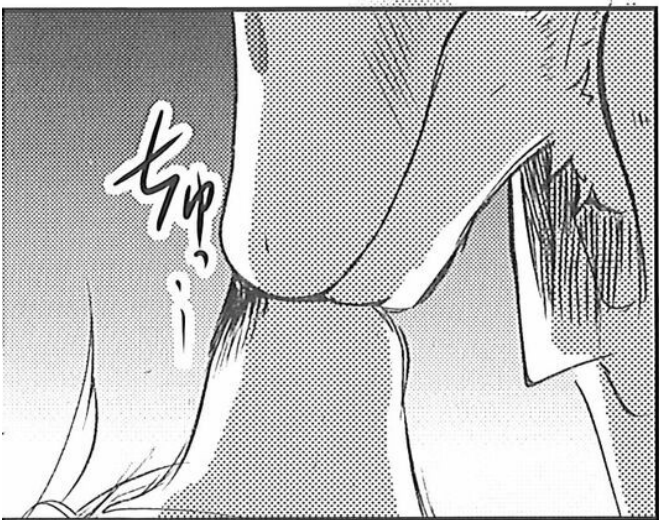
す

♡♡♡

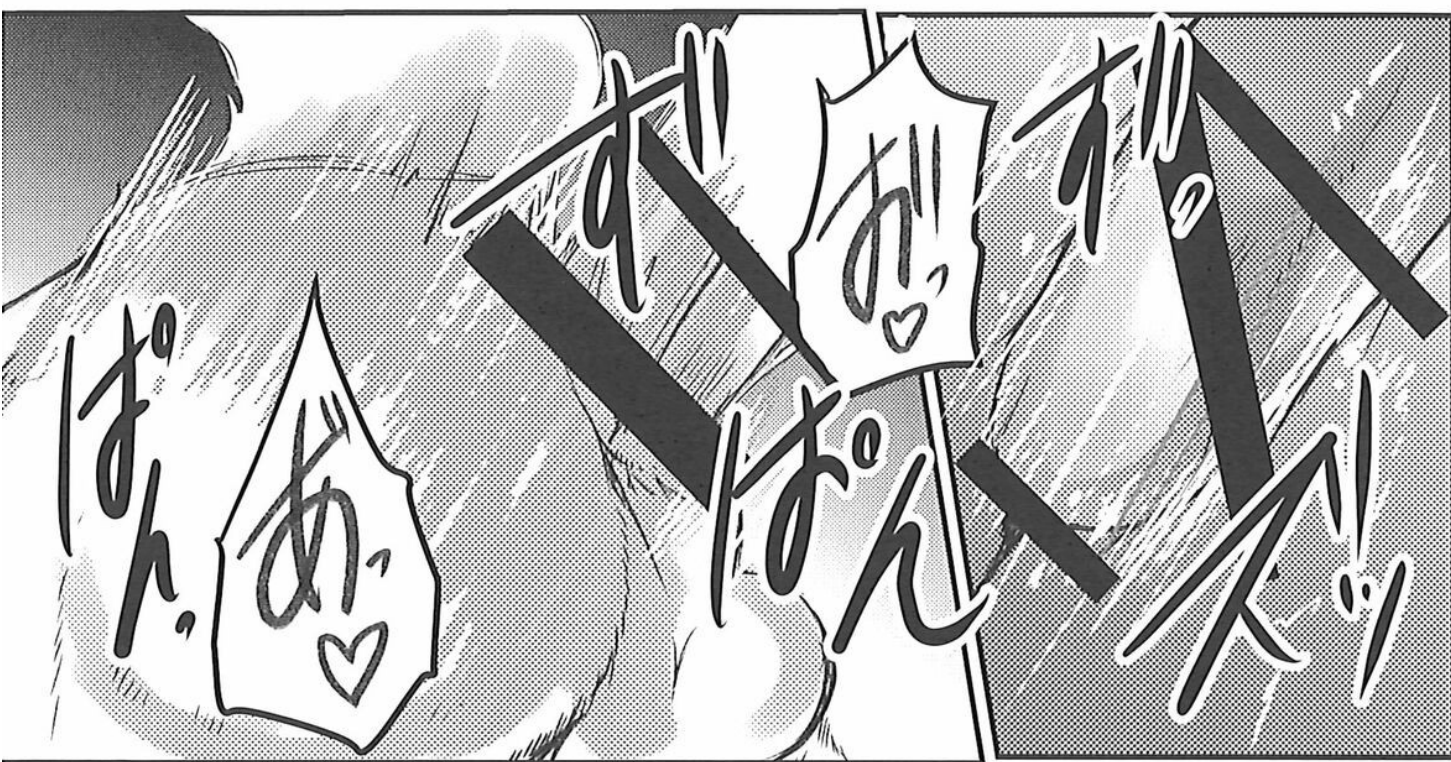
お♡  
了♡  
ん♡













中に...!!  
出っ...

私も...  
いきます...!!

どし、♡

どし、♡

どし、♡



すごい  
出てる

勿体無い…  
が…

まだ…  
まだ出てる…

溢れそう…



御主人…

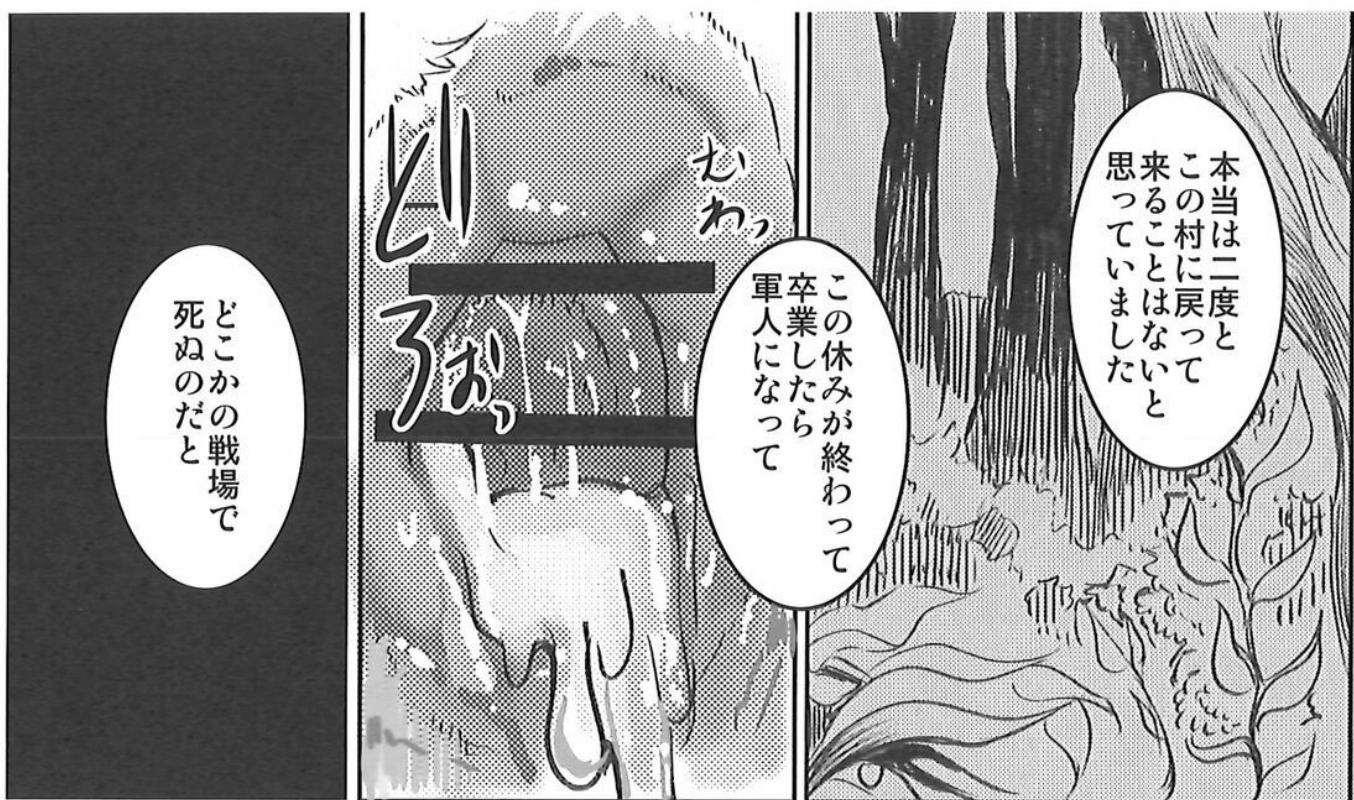


濃い…精力だ…  
お前は本当に  
かわいいな

いい子だ



御主人…!!



どこかの戦場で  
死ぬのだと

この休みが終わって  
卒業したら  
軍人になって

本当は二度と  
この村に戻って  
来ることはない  
と思っていました



いえ  
そんなことは

我が眷属に  
なった事は  
嫌か

ヒトでなくなり  
死ぬ事ができなく  
なったが



うーん御主人  
やっぱ変な神

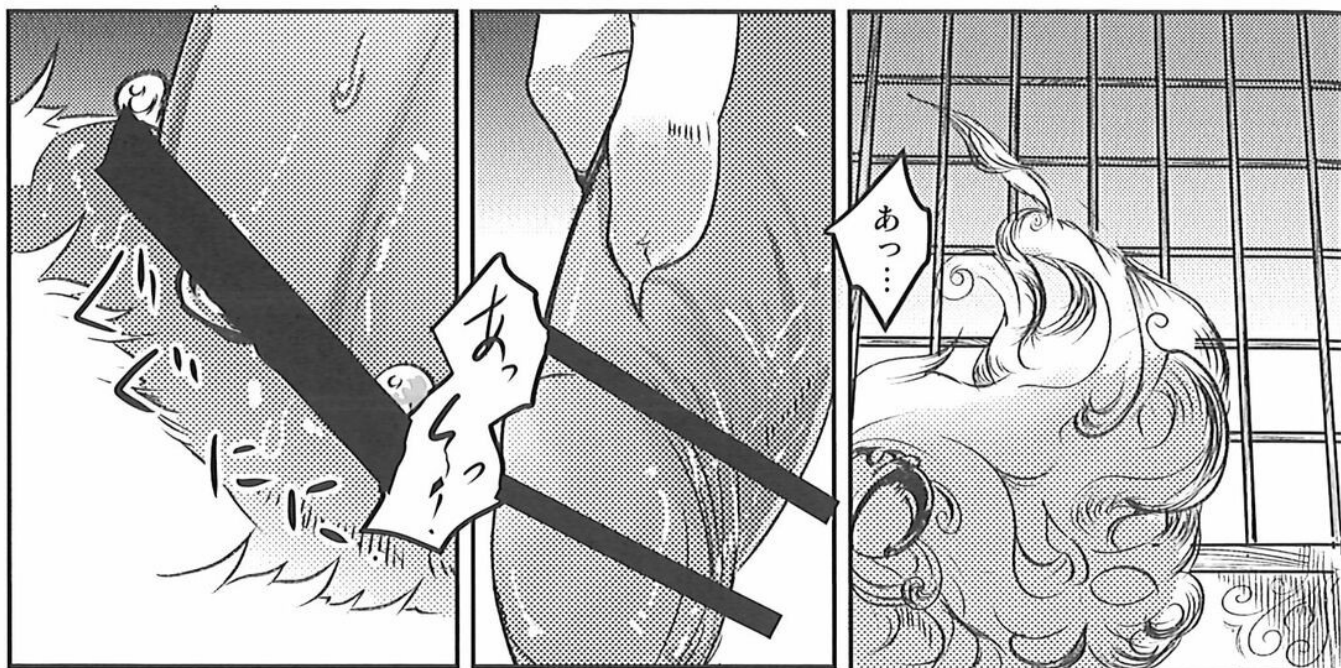
ここは外と時間が  
違うからな  
何度でも何回でも

我が眷属に足る  
力を得るまでだ

もつと縁を  
強くする為に  
今度は私がお前に  
ぶち込むぞ

縁に見捨てられ  
死に場所を求めて  
いたお前が不死を  
嘆かないことは  
嬉しいぞ

だから私は  
お前が愛おしく  
思える



おいお前

起きるっぺよ！



おめえ夜h  
境内立ち入り禁止  
だつべ

当番で掃除に  
来たたら倒れてたけど  
何ともないなら  
黙っててやるから  
帰ってておくん

管理にきてる村人たろ



そら見たことか  
やつば見張り  
いるつべ

けんど一日中  
見張れつてかえ  
馬鹿こくでねえ



忍び込むやつが  
いると  
役場で問題になるべ

だからお前も  
黙ってておくん



ヒトに  
戻ってる

そんな  
だから  
入り込ま  
るつべ!

だから  
縄かから  
べ札  
やつけたて



あれは夢  
だつた!

って事は  
ないな



気付いたか

二人の胸から  
垂れてる  
あの紐



先端は呼べば  
手元まで来るぞ



…はあ  
やつて  
みますが…



この紐を  
結ぶ

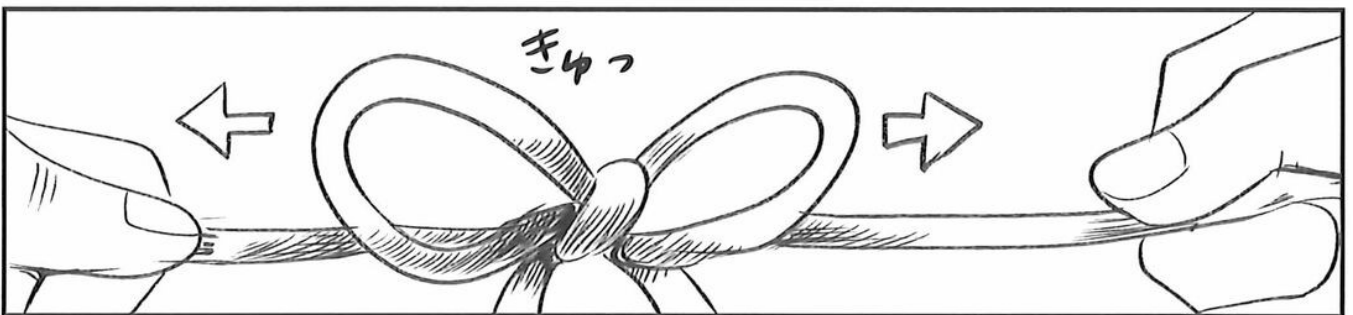


我が権能の一部を  
お前に与えたのだ

御主人!

彼らに私の姿は  
見えないから  
不用意なことは  
口にするなよ

折角だ  
そいつらの縁を  
繋いでみる



ぎゅっ



やっぱり  
好きだっぺー!!

俺もじゃー!!



…俺もじゃ

…でもな  
嫌いな  
なれねえんだ



だから  
気にお前は  
なんだお前は!

俺もそうじゃ  
死ねクソボケ





その力を使い  
我が眷属として  
ヒトの世を  
見回って

必ず帰って私に  
外の世界のことを  
聞かせておくれ

……  
畏まりました



なるほど  
死に場所を  
探すよりは  
悪くない

おれは必ず  
嫌っていた  
故郷へ

変態で  
おせっかいな  
御主人の元へ  
帰ろう

縁は

では

行つて  
参ります

結ばれて  
しまったの  
だから

のっぺり工房